

## ジョージア（グルジア）便り その48 ダンサーは神のアスリート？

文 高野陽年 text by Yonen Takano

かの有名な物理学者アインシュタインは「ダンサーは神のアスリートである」という言葉を残した。

アスリートはどの時代においても尊敬と羨望の眼差しを受けてきた。自らを鍛え抜き、さまざまな困難に立ち向かいそれを乗り越えていく姿に感銘を受けるのだ。確かにバレエダンサーは肉体的にほかのスポーツ競技者に比べても遜色ないトレーニングを積んでいる。プロサッカー選手は1日2時間のトレーニングで切り上げるようだが、バレエダンサーのリハーサルは7時間近くになる事もザラだ。だがアインシュタインはダンサーの鍛え抜かれた体、大きなジャンプ、ダイナミックな回転に圧倒されて「神のアスリート」と名付けたのだろうか。そんなに単純ではない気がする。

そもそもアスリートの語源はギリシア語の「賞を求めて競技会に参加するもの」。日本でも相撲が神事であったように、かつての競技会は五穀豊穡や天下泰平を祈って祭礼などに神に捧げる

目的が強かった。ギリシアではオリンポスの神々に捧げていたのだろう。ゆえにアスリートは「神に捧げる勝利を目指す者」と言い換えることができるだろう。

能など分かりやすい例があるようにダンスも根源は同じだ。神へ踊りを奉納することから僕ら人間は踊り始めたのだ。そして僕らダンサーはバレエを通してさらに神を意識した。バレリーナがトウシューズをはいて爪先立ちになり、高いジャンプを目指すのは天に10cmでも近付こうとするからだ。

ギリシアの神々をかたどった彫刻を見たことがあるだろうか？ 一体として猫背の神はいない。足元をよく見るとつま先が外側を向いている。まるで今から踊り出すバレエダンサーのようだ。一般人が同じポーズをとってみようとすると案外疲れるはずだ。ナチュラルであるよりも体を作り出す線の美しさを求めたからであろう。僕らはトレーニングによって体の構造を変えていく。つま先を極限まで伸ばし、膝の形を曲

線と直線が織りなす美しい構造物へと変えるのだ。つま先立ち、大きなジャンプ、自然体に反して線を変えらるという事は体にかかりの負担がかかる。僕らは自らの健康を犠牲にして理想を目指すのだ。全ては少しでも神に近いところで美という勝利を捧げるためである。だからこそアインシュタインはダンサーを「神のアスリート」と呼んだのだろう。

神聖な気持ちで舞台にのぞもう。神のアスリートという自負を持って。

### Profile

2011年にロシアの名門ワガノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニシヴィリに引き抜かれグルジア国立トビリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。現在はその団の主要なダンサーとして国内外の公演で劇場を牽引している。立教大学中退。

